（廿七日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

論壇

棄權

議員選擧に於ける棄權は國民參政權の自殺行爲である。宗教家が人間の自殺を以て神の意思に背くと信ずる如く、選擧萬能論者は棄權者を以て、政治上の無智低能者の如く考へて居るやうだ。其處で幾百萬枚の宣傳ビラを撒布し、成るべくその棄權數を減少すべく努力しつゝある。昨今之が爲めに大變な騒ぎを始め出した。

◇

普選を以て政界一切の腐敗を淨化し得るもの如く考へてゐるお目出たい連中は『汝の清き一票をその良心の命ずる候補者に向つて投せよ』と勸告してゐる。處が昨今發表しつゝある候補者にして果して清き一票に値する程の人物が何處ぞに在る乎。或は在るかも知れないが我投票區には皆ない。その時は何とする！何でも彼でもズラリと並んだ候補者の一人に投票せねばならぬとせば、その清き一票は却て愚劣なる候補者の爲めに汚されることになりはせぬ乎。茲に重大なる疑問が起る。

◇

我輩は今之を自殺の場合に喩て見る。自己の商賣が忙しいとて或は病氣其他の理由にて棄權を餘儀なくせらるゝ者は、家庭の感情のために自殺する輩と同じ型である。無理に選擧場に引張り出されて否でも應でも投票せねばならぬとする。處が胸中には相當の候補者が居ない。據どころなく豐臣太閤とか、乃木將軍とか、出鱈目の無効投票を造る。この連中は選擧の神聖を茶化すと云ふ點に於て、浮世を茶にする哲人の自殺にも比すべきであらう。

◇

偖最後問題は正眞正銘の棄權者だ。現代議會政治の缺陥に目覺めたる者は、口先計り達者なテーブル叩きの無賴漢や、普選の戰場に何萬圓（制限額は平均二萬圓だ）かの大カバンを振り廻し見え透いた買收運動をやつて居る從輩抔には、迚も馬鹿らしくて投票が出來るものでない。この自己の參政權を犠牲にして自殺する棄權者こそ却て眞に最高政治を理解する識者ではあるまいか、昨今こんな論理を我輩は一寸考へて見たが、果して夫れは無理であらう乎。

明日の吉凶

舊曆一月六日
新曆一月二八日

▲一白の人一家心を纏めて專心業務を勵むが安全日▲二黑の人追々と盛運に向はんとする端緒物事焦るな▲三碧の人虚榮を慎しみ目上の言に從へば吉となる▲四綠の人憂鬱散じて物事順調に進み外より內が吉し▲五黄の人位のみ高まりて實收は以外に少き日旅行凶▲六白の人學業も都合よく運び行き願望も成就すべし▲七赤の人我意を通さじ萬事目上の人の言に從へば吉▲八白の人果斷にして迷ふ事なくば成功の一日となる▲九紫の人心決せざる時は小事も手に餘る事となる日

◎◎◎◎◎替り小説豫告

目下本紙掲載中の小説血で血を洗ふは讀者各位より白熱的喝采の裡にいよ〳〵大團圓を告げる事となりましたので本社は更に精選せる讀物を選擇いたしました結果來る三十日夕刊より

講談

闇に閃く男達

高田涙川作
尾崎雪麿畫

を連載する事と致しました、本編は大衆講談の創作者として目下東都の諸雜誌に名聲を博し常に艶麗なる筆蹟に依りて讀書士を振はしつゝある例の涙川高田先生が最も興味ある大俠客村雨金五郎を大衆讀物式に書卸され、名文にして現時の如く幕末物か俠客物に注集せんとする吾が講談界には此上もなき興味津々たる讀物であります。涙川氏は務めて誰にでも判り易い然かも風味のある文書で頗る輕妙に興味を中心として書き連らねた所謂學者でも商人でも勞働者でも女でも男でも老人でも子供でも平易にわかりやすいやうに書卸された此の位い面白い講談は他に絶對比類がないと高言して憚らないのであります。何卒御愛讀御批判下さる樣御願ひ申上げます。

講談

血で血を洗ふ

(242)

高橋掬太郎創作
布施半八郎揮毫

老功の一言

昌康が討たれ、早間重太夫も斬られてしまつたので今日まではどんな腹でゐた者でも馬鹿でない限り今更成昌に及向かふ筈がなかつた。清左工門に呼ばはられて誰一人聲を發する者もなく、一同が面目なげにうなだれて恐れ入つた

「どうぢや、我等を憎み主君に敵對の心を抱く者は遠慮なく名乗りをあげて出て參れ、勝負を致して遣はさう。どうぢや」

清左工門は再び叫んだ

と、清水八郎老人が清左工門に向つて

「御家老、これに居るは皆忠義の人々でござる」

「うむ」

「今日まで昌康公に從つてゐたと申するは深き秘密の爲情を知らず早間重太夫と昌康公の惡計に引きづられて居つたもので、それが主君に對して不忠になる事とは存せずに居つたのでござる、斯く申す某や、横山大五郎、須田石之進の諸士も同様、今日まで内心は忠義の念に燃え立ちながらも、表面は昌康君や早間重太夫に從ふと見せかけてゐたのでござる。故に、これに居られる方々は主君に忠義の方々ばかりでござる、若し主君に敵對する如き者があれば、默つてはゐぬ筈、斬つて出る筈でござる」

と流石に老巧に此の場を圓滿に解決しやうといふ八郎の言葉であつた。清左工門もそれと知つて

「成程、清水氏の云はれる通り、拙者も十八年の永き間不忠者の下に甘んじて居り申した。それを思ふと一同の方々も忠義の人々のみにござらう」

と、うなづいた

「御承知下さるか、辱けない、不忠者等は皆討たれた。殘つたものは忠臣ばかりでござるわい」

と、八郎は喜んだ

「左様、殘つたものは忠義の人々ばかり、目出度い〳〵各々今後も忠義の心をお忘れあるな、決して惡の榮える世はござらぬ」

清左工門はそれとなく戒めたのであつた

「はゝッ……」

と一同は平伏したが背筋脇下から氷のやうな冷汗が流れた

「主君、お目出度く存じまする」清左工門が云つた

「うむ、目出度いのう」

と、成昌も喜んで前にあつた昌康の首級を清左工門に手渡し

「余を裏切り及向ひし憎つくき奴なれど、死しては佛罪はない、殊に余のために切つてもきれぬたつた一人の弟ぢや、懇ろに葬らうてやつてくれ」

と、何時にかはらぬ情の言葉に清左工門を初め世居一同は感激した

「はッ、かしこまりました」

と、清左工門がうけた

「重太夫の首級は如何に致しませうや」

忠太郎が問ふた

「うむ、主に及向かふ大逆人、昌康の愚鈍に突け込んで今日の大事を惹き起した大惡人ぢや、世の戒め人への見せしめ獄門に晒してよからう」

「はゝッ……」

成昌の裁きは神の如く正明であつた

「して、主君には今日まで如何に遊ばし居られたのでございまする？」

清左工門が問ふた

「余か、余は主水や立原新左工門殿に助けられて居つたのぢや、主水今日までの事を物語れ」

「はッ――」

下瀬主水が前へ出た

「して、立原新左工門殿は」

「昨年の秋に果てなされたのでござりまする」

と主水が云つた

◆廿七日ヨリ優秀映畫週間

日活超特作大雄篇、尾上多見太郎決死猛闘
報恩義劍　恩讐の血煙　全
葛木香一、櫻木梅子、實川延一郎、木下千代子、尾上卯多五郎　助演

原作　菊地寛　主演　栗島すみ子
後篇　眞珠夫人　全
黄金廣莊勝平の慘虐な迫害に泣く唐澤親子、ルリ子の復讐はユーデットの如く……自から莊田夫人となり反抗の……凄慘なる……精神の攻戰……？

ハルロイドロイド畢生の大傑作
人情喜活劇　田五作ロイド　一番槍　全
原名〔子供の弟〕從來の喜劇型を破りメロドラマの色彩に活劇とローマンスを多分に持て居る

大河内傳次郎　獨特狂刃亂戰
仇討走馬燈　劍と戀　全
或る城下ノ夕暮れ……討つ武士ノ討たれる武士の呪の劍を拔合された……殺氣滿る時文政二年の秋の初め……

料金普通
土日曜學生デー

日活松竹特撰映畫
高級常設　平館　電（四六六）

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります。然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所
電話　六〇三番　五四一番

四陣堂々敵營を壓する大陣容

濱の勇者に闘しての格闘　我等の市川百々助　大車輪劇
海の強もの　濱の若者　全八卷
父は討たれて悲嘆にくるゝも束の間……猛然立つたる勇藏の雄姿……勇しきかな復讐の氣……海陸に互つて縦横無盡痛快無比の大殺陣劇……

原作自演東郷久義、小宮一晃、三保松子熱演
絶海洋上　孤島の勇者　八卷
端麗優美の一青年と海賊團の一行との間に散る鐵拳の火花…怪男兒東郷の活躍は我等の手に汗を握らせ息を呑ましむ……

藤間林太郎、里見明、歌川八重子、松葉笑子、高津愛子
下町情緒　鹿の子草紙　全十卷
私は義理と人情の棚に泣いた頭の緋鹿子の草紙と願して美しい情緒をそのまゝに此の一篇をさゝぐ

江戸往還の中心點　お江戸日本橋　十二卷
大江戸の闇を縫ふて出没する怯賊…闇殺團…暴闘組等々田沼自慢の太毛槍を振ふ強力奴怪しきお高祖頭巾の女…走馬燈の如く展開
中根龍太郎、玉木悦子の大競演

廿七日ヨリ替
土曜日曜夜二回
帝キネ　マキノ
有聲座　電四四六番

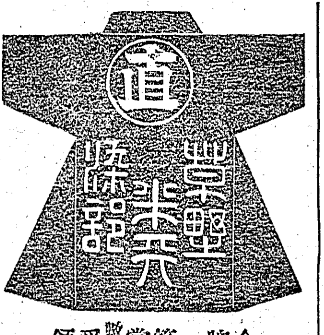
診察無料

如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい

院長博士　敬白
大谷時計病院
電話一一九番

內科。外科。婦人科。小兒科。花柳病科。

磐城病院
平町田町本通り（電話一一四番）
入院隨時



金牌一等賞數回受領
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番

◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候

內科
小兒科
皮膚科
花柳科

平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

蜂ブドー酒
眞の愉快は？
眞の安息は？
眞の健康は？
みな蜂の一杯から……
『蜂印香竄葡萄酒』といふ名稱を皆様のお好みに依り今後『蜂ブドー酒』と改めます　尚市場にある從來のものは其儘として追々に『蜂ブドー酒』と改めます
[illegible]近藤利兵衛商店[illegible]

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄

內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

外科專門
入院隨意（自炊の便あり）
平町南町
上田外科醫院
電話一二九

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋
(久)釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番・一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

石城政友協議會で 運動方法協議

明後二十九日平町で

直ちに運動開始

石城政友部會では昨二十六日豫選會を開き萬場一致を以て木村淸治氏を公認することに決定した旨既報の如くであるが來る二十九日平町倶樂部に同志の協議會を開き運動方法その他具体的協議をなし直ちに猛運動を開始する事となつた

平青訓所で 入所生募集

入所式は四月

諸預り金激増の青年訓練所では開所以來の成績が頗る良好で且査閲毎に係官を驚倒せしむるほどの拔群なる訓練所としてめられるに至り何且未だ當所の教養を卒へて入營した壯丁はないが訓練所を經たるものの入營兵成績が良好なることは全國的に當局から認識されてゐるに鑑み平町學務係では本年入所生の調査及勸誘に努めてゐるが訓練所規定の入所期は一月なれば實際に就ては町村豫算の年度切替が四月であるのと主事指導者等が學校職員であるたるため各種の都合もあるので其決定を來月中に整理し入所式は四月に行ふ事に內定してゐると

少し違反も許さず 取締りは嚴重

腕をこいて待ち構ねる

警察當局の方針

普選第一回の試練によつて今回の總選擧に際しいよ／＼選擧が本舞臺に入つてから候補者の運動に對する取締方針に就いて警察部では「法の命ずる處に隨つて嚴重になし違反者の場合は少しも容赦せぬ」と強い處をほのめかせてゐる、前回縣議選擧の場合は普選法疑義に對して取締當局もその見解がまち／＼であり隨つて運動者、有權者、候補者などはうまくごまかす場合があつたかも知れないが、今回は事實の上で二回目であるからこの逃手は當局としても充分研究の付いてゐる處であるから大目には見ず、二月上旬縣に於て開く選擧事務取扱ひ主任打合せ會に於ても高等課から此の取締方針に就いてそれ／＼傳授することになつてゐるが畢竟選擧期間はみじかし、選擧取締が峻嚴にする運動上には可成り手嚴い目に會ふものゝ如く觀られてゐる

選擧の心得（二）

之れだけは忘れるな

普選とは如何なるものか

今度の總選擧は、改正衆議院議員選擧法即ち所謂普選法に依つて初めて行はれるのであります一体普選と申しますのは制限選擧に對する言葉であつて、選擧權に制限の設けない選擧法のことをいふのであります併し選擧權に制限を加へないと申しましても人には性として男女の差もあれば年齡の幼長もあり又國によつて夫々事情も異つて居るのでありますから、何れの國でも國民一人殘らず選擧權を與へるといふことは適當ではなく又不可能でありますから從つて何れの國普選も年齡について相當の制限を設けてある外各其の國の事情に依つて夫々制限を加へて居るのであります、我が國の改正選擧法に於ても又然りでありまして性・年齡とに制限が加へてあります即ち年齡二十五年以上の男子に限られてをります尙我が會社の特別の事情として假令年齡二十五年以上の男子であつても選擧權の與へてないものもあります、（選擧法第六條、第七條、參照）併し我が改正選擧法は之を外國の例に徵しましても所謂普選法と申すの何等差支へがないのであります、所謂制限選擧の制限の下に於ける選擧權の制限標準は國に依つて異るのは勿論でありますが我が國既往の選擧法は其の制限の標準を納稅と住所とに採つたのでありますが今我が國に於ける選擧權利制限の歷史を辿つて見ますと、明治二十三年初めて選擧法が實施せられてから同三十三年改正せらるゝ迄は納稅（直接國稅）十五圓以上住所一年以上と云ふ可成り嚴しい制限でありました此の選擧法の下で第一回から第六回迄の總選擧を行つたのでありますが、選擧人總數は毎回僅かに四十萬人乃至五十萬人に過ぎなかつたのであります明治三十三年に選擧法が改正せられて納稅額を拾圓、改め大正八年迄は同じ制限が續いたのであります此の制限の下で第六回から第十三回迄七回の總選擧を行つたのでありますが其の選擧人數は毎回百萬人乃至百五十萬人でありました大正八年選擧法を改正して納稅額を參圓に低下するとともに住所の制限を六ケ月に縮めたのであります其のため選擧人數は餘程增加して三百萬人乃至三百三十萬人位になつたのであります即ち第十四回と第十五回の總選擧は此の制限の下に行はれたのであります

×

そして愈大正十四年に右の選擧法を改め、納稅資格に依る制限を全然撤廢して所謂普通選擧となつたのでありまして、其の結果選擧人の數は一躍一千三百萬人に增加したのであります

以上に依つて見ますと、我國從來の選擧法は納稅を以て選擧權制限の主たる標準として所謂制限選擧であつたのであります、併し其の資格制限は漸次之をゆるめて來て遂に今日の所謂普通選擧を實行する迄に進んで來たのでありますこれは皆國民政治思想の向上充實に依るものでありまして、一面に於ては出來得る限り廣く國民に參政權を與へることを精神とする立憲制度の趣旨に合するもので、即ち憲政の進步發達を示すものと言はねばなりません、故に舊有權者たるものは向後益々自重して相與に憲政の濟美を期することに心掛新に貴重なる權利を得た新有權者は右の趣旨、理解して所謂普選の實を擧げ、自分並に國民一般の安寧幸福と國家の隆昌とを圖ることに努力せねばなりませぬ

舊の元日以來 違反八十名

多くは無燈火

平警察署では既報の如く歲末年始の市中警戒の爲め據ねて特別執行中であつたが此の警戒網に引かかつた者は正月元旦以來廿六日までで驚くなかれ八十名の多きに達し其の中で一番多いのは依然として無燈火無警笛等の自轉車に搭上した交通違反で一日平均約二件宛つの違反者を出だしてゐる次ぎは期節向きの賭博で胡鼠泥棒は案外少く舊正月の二日市には例年萬引が十數件あつたのに今年はどうした譯か僅に三件だけであつた

平地方のラジオ熱 些さか澁滯

仙臺放送局の完成まで

萬全は望めない

平町地方に於けるラジオ熱は一時素破らしい擡頭に比較し最近では幾分下押しの模樣にある事は否めない事實であるが之れは銚子、原ノ町無電の音波に困るムツシユによつて完全に聽取する事が出來ない結果にして仙臺放送局の完成までは此の狀態にある外あるまいと見られ同放送局の竣工は當地方一般から非常に期待されてゐるが仙臺放送局も來る四月の花の頃、折しも開かる、東北產業博覽會に間に合せて單獨放送をするやうにしたいので目下種々と準備中にあるが肝腎の維持會員の納むべき一口一二百圓の納入が頗る芳しくないとあつて非常に弱つてゐるやうである、然し其納入成績はどうあつても放送の方は此の單獨放送を出來るだけ早く切りあげて礎石化の一番槍として中繼放送をする事になるので其方の工事を進めねばならず、どの除中繼放送をするならば國民の全部が赤誠を披瀝して慶び待つ處の彼の秋の御大典までに間に合せ御大神放送を仙臺放送局の加入者にも聽かせたいとあつて同局に於ては此の工事をいそぐ事とし東京本部の努力に俟つて工事をいそぐ事に決し四月早々測量に着手するの段取となつた

兎を種にして

五十圓騙取

忠正取調中

高久村大字下高久字唐崎生れ當時內郷村大字御厩居住野口忠正（四二）は去る十二月中平町字新川町養兎業渡邊好次郎から兎二百五十羽を入荷すると僞つて金五十圓を詐取した以來此の程平署に探知され廿五日平署に召喚嚴重な取調を受けた結果犯行を自白したが忠正は前科三犯を有する强か者で其の詐欺手段の巧妙なのは驚くばかりで餘罪も多數ある見込だと

馘首看護婦が

復職運動

共濟病院騷ぐ

平町社團法人磐日共濟病院內科醫渡邊桂太郞氏が昨年十二月末日解雇されたので附病院附看護婦村上タマ、宮崎カツ子藤澤クニ、同事務員渡邊ミイノの四名が去る一月十五日新井院長に對し渡邊氏の復職を迫つたため右四名の者も馘首された事は當時報導した如くであるが解雇された四名の中宮崎を除く外の三名は二十五日午後三時ごろ病院に院長を訪づれ、復職を嘆願したが、新井院長は斷乎として拒絕したのでこれ等看護婦は種々畫策中であると

あす舊郡衙に開く 養蠶同業總會

豫算は五千八百圓

製絲場設立後援

石城郡養蠶同業組合では今廿七日午前十時から舊石城郡衙に於いて評議員會を開催し明廿八日午前十時から同所に於いて開催する總會に提出する協議事項の打合せを爲したが同總會の提出協議事項は大体次の如くである

△昭和三年度の組合經費賦課徵收方法に關する件

△同經費豫算の件

豫算は五千八百十三圓

△一時借入れ資金の件

△縣同業組合聯合會代表者改選の件

△組合製絲場設立に關する件

△役員流用の件　以上

尚本紙が既報した片倉組か平町を中心に三百釜の一大製絲工場を創設すべく計畫中の事は同業組合は地方養蠶組合員の福利を增進する目的で組合製絲場の設立に關する協議の上結極は片倉組の工場設立に應援する事となる模樣である

小名學務委員

縣外視察

補習教育改善

石城郡小名濱町學務委員は大小名濱を建設する第一步として補習教育改善問題を提げ今二十六日より約一週間の豫定を以て郡山福島仙臺鹽釜方面へ視察の途に上る筈であるが一行次の如し

野崎昇太郎、小松重兵衛、佐伯三郎、丹野寬平、堀越武、西山校長、高木助役

俄かに擡頭した 婦人の職業熱

女學校出の稼ぎ盛りが

平町で約二百人

平町地方最近に於ける女性の職業的進出は年と共にめざましく將來サラリーマンの世界に一つの脅威を與へるであらうといはれ、今まで我等の天下と一人誇つてゐた男性も追まくられる傾向となつた、その筋の調査によると現在平町の學校、役所、會社、商店等に勤めてゐる

職業婦人の數は少く見積つて二百人は突破するだらうと觀られてゐる、その筆頭が郵便局、病院で使つて見ると生意氣な男より優しい女の方がよいといふ聲がだん／＼と高まつてゐるが、こゝに注目されるのは此職業婦人のうちに昔ならば職業婦人などに目もくれなかつた女學校出がウンと增加してゐる點である職業婦人の中堅は完全に女學校出によつて占められてゐるから之から更に女性の職業化がはやり出すと大都會式な女性が出ることにならう、昔は女學校を出ると特別の事情ある人を除く外は大部分家庭から結婚の準備として裁縫、茶の湯

生花の稽古に通つて只管ひをつゝしみ良緣を待つてゐたものであつたが近頃は反對に特別の事情ある者以外は職業にありつかうと努力する樣になり今から三月の卒業期を控て就職口を依賴して來る者が出て來たとは職業紹介所の話である

馬匹の去勢

平と植田で執行

本縣では左記日割で以て本郡の馬匹の去勢を行ふ事となつた

（平町）三月十二日と十三日（植田）同月十四日より十六日まで

前年に較べて 約二倍の豐漁

市價百萬圓を突破した

小名濱町の漁業

石城郡小名濱町に於ける昨昭和二年中の漁獵統計は同地漁業組合の手でこの程その調査作成を了つたが總額六十八萬五千八百十八圓で前年の卅三萬三千三百四十四國に比し白井氏大敷網の新設其他一般好漁なりし結果實に一躍一倍を突破せるの好成績で市場に於ける取引相場を以てする時は恐らく優に百萬を突破せるものと觀られてゐる而して之れが內譯は元年度地船二十七萬三百五十圓廻船六萬三千圓二年度地船四十八萬七千六百圓廻船十九萬八千二百圓で而も新事業として將來を有望視されてゐる機關揚繰網は僅に二ケ月間で約三千圓を漁獲した

燒◇餅◇女◇將◇自殺◇

自家の抱女と亭主を疑ひ

猫イラズを嚥む

石城郡勿來町窪田字白山、料理店龜井あさの（三六）は二十四日午後五時頃自宅內に於て猫イラズを嚥下し自殺した、原因は大正十四年七月夫石崎武右衛門（三三）に身受され現在の地に於て料理店を開業してゐたが、あさのは嫉妬心が强く自家に三名の酌婦を雇つてゐたが夫は酌婦と醜關係を結んでゐる如く憶測し常に嫉妬の心を抱いて喧嘩が絕ゆるなかつたが五六日前夫で東京に酌婦を雇に出掛け新に雇入れたる酌婦と夫が醜關係を結んだものと思ひ込み嫉妬のあまり自殺を計つたものであると

磐越銀行成績

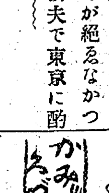
諸預り金激增

磐越銀行昭和二年度下半期の成績は財界不況にも拘はらず好績を示し諸預り金六十二萬六千圓に達し純益金二萬三千三百十五圓九錢を數へた、この處分案は左の如く決定した

▲法定準備金二千五百圓▲特別積立金二千五百圓▲行員退職給與積立金五百圓▲重役賞與金四百二十二圓五十九錢▲株主配當金年七分八千五百九十二圓五十錢▲後期繰越金八千八百圓

川前農會協議

川前村農會では昨廿六日午前十時から同村役場に於いて總代會を召集三年度の事業其の他に關する打合せを爲した



小名濱新米のノンキさんウブそふに見ねて中々隅にはたけぬしただかもの、斗酒尙辭せずの姐さんで醉へは必ず天下國家を慫かす珍藝富を仕出かさねバ夜もろくにねられぬとの畢淺い川が十八番で館の額をヨキで割つた樣なところを約一時間の公開にはあれよ／＼と氣の遠くなつたものの二十三、四醫者よ藥の大さわぎでやつとフーさんの一札差入れで生氣を吹き返したとはうその樣な舊正月二日の出來事である、報告終りッ

營業報告

株式會社磐城實業銀行

昭和二年十二月卅一日現在

貸借對照表

資産之部

拂込未濟資本金	五二、〇〇〇、〇〇〇
諸貸付金	九二六、〇六六、九五〇
他店へ貸	二九〇、八一〇
有價證券	六、六七一、二〇〇
營業用什器並ニ所有不動產	三、八一八、五五五
假拂金	一、一〇〇、〇〇〇
現金及預金	一八、六〇三、五一〇
合計	一、〇三七、五六一、〇三五

負債之部

資本金	三〇〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金	二五、四〇〇、〇〇〇
諸預金	一九五、八七〇、三五〇
コールマネー及借入金	五〇三、一八三、七一〇
他店借	一八二、四九〇
未拂利息未經過割引料並ニ未拂配當金	一、八三五、三〇〇
第三種所得税並ニ資本利子税	二四六、九一〇
當期純益金	二、八四二、二六〇
合計	一、〇三七、五六一、〇三五

當期純益金　二、八四二、二六〇

之レヲ處分スルコト左ノ如シ

法定準備金	一、五〇〇、〇〇〇
賞與金	九〇〇、〇〇〇
配當金（年七分）	八、六六〇、〇〇〇
後期繰越金	六、二三六、〇〇〇

右ノ通リニ候也

昭和三年一月

株式會社磐城實業銀行

取締役頭取	馬目太平
專務取締役	鈴木辰三郎
取締役	鈴木喜太郎
同	大平睦四郎
同	叶多鉾治
同	白井一郎
同	薗田嘉藏
監査役	岡田次作
同	阿部太平
同	鈴木松之丞
支配人	鈴木源藏

追而取締役監査役全員任期滿了改選ノ結果取締役ニ馬目太平、鈴木辰三郎、鈴木喜太郎、白井一郎、大平睦四郎、岡田次作、監査役ニ阿部太平、鈴木松之丞氏就任セリ

株式會社磐越銀行

資本金	八五〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金並ニ繰越金	八七、三〇〇、〇〇〇
諸預金	六二六、二三八、〇〇〇
諸貸付金	八四四、七一九、〇〇〇

全國爲替取引先參百七十個所

決算公告

株式會社磐越銀行

改稱第拾九回

昭和貳年下半期

貸借對照表

負債之部

資本金	八五〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金	一二三、〇〇〇、〇〇〇
諸預り金	六二六、二三八、九八〇
爲替借及借入金	六九、〇三七、六六〇
未拂利息及未經過割引料	一三、三八一、八一〇
未拂割賦金	七三、三三〇
當期純益金	二三、三一五、〇九〇
合計	一、六五五、六八六、八六〇

資産之部

未拂込資本金	六〇四、五〇〇、〇〇〇
諸貸出金	八七四、一六〇、八〇〇
割手、荷手	四一、九二一、〇九〇
爲替貸	一六、三五三、六七〇
國債及所有物	六七、四一六、八〇〇
預ケ金及現金	五一、三四五、五〇〇
合計	一、六五五、六八六、八六〇

利益金處分

當期純益金　二三、三一五、〇九〇

之ヲ處分スル事左ノ如シ

法定準備金	二、五〇〇、〇〇〇
特別積立金	二、五〇〇、〇〇〇
行員退職給與積立金	五〇〇、〇〇〇
重役賞與金	四二二、五九〇
株主配當金（年七分）	八、五九二、五〇〇
後期繰越金	八、八〇〇、〇〇〇

右之通り候也

昭和參年壹月

株式會社磐越銀行

專務取締役頭取	中野甲藏
取締役	小野靜重
同	薗田嘉藏
取締役兼支配人	瀧澤俊平
監査役	大谷喜作
同	小林利光

吉田眼科醫院

藤沼醫院

大野國次郎儀 病氣加療中の處去る十九日午後十時永眠致候段辱知各位に謹告仕候

尙は葬儀の儀は追而平町に於て執行致すべく日時其の他は決定次第御通知申すべく右取敢ず本廣告を以て御通知に代へ申候

一月二十二日

嗣子　虎雄

友人總代　中野浩忠